

熊本県知的障害者施設家族会連合会だより

きずな

第98号

〔事務局〕〒860-0842 熊本市中央区南千反畑町3-7 熊本県総合福祉センター2F TEL・FAX (096) 351-8599



第58回きずなの会通常総会開催

きずなの会 会長 上村 忠

九州北部地方は6月8日に昨年より4日遅い梅雨入りの発表がありました。夏が暑くなりそうで会員の皆様におきましては熱中症の予防に最大級の注意を払っていただきたいと存じます。

昨年は、大規模な災害が発生しまして多くの人が被災され、障がい者にとりまして不自由な避難生活が余儀なくされておられまして、皆様から心温まる義援金をお寄せいただいたところでございます。

第58回のきずなの会の通常総会も皆様方のご協力によりまして6月7日にくもと県民交流館パレアにおいて開催することが出来ました。

御多忙の中にご出席されました家族会員の皆様には衷より感謝申し上げます。

また、今回の総会には、御多忙の中にもかわりませず木村敬知事様にご出席を賜りました。

知事は「障害者支援施設は、障害者の終の棲家としての機能を持った施設として必要であり、きずなの会からの要望がありました理想的な施設の在り方を国へ伝えていきたい」と挨拶されましたことは、きずなの会としての存在感の高まりを感じたところであります。

また、熊本市長代理健康福祉局長林将孝様、熊本県知的障がい者施設協会会長代理で副会長の古田浩二様、熊本県障害児・者親の会連合会長坂田和夫様、熊本県手をつなぐ育成会長代理常務理事池本愼一様をお迎えしましてご挨拶を賜りまして開催できましたことは感謝に堪えません。

今回は、コロナ感染症の影響でここ数年間は代議員だけで開催しておりましたが、各施設の職員様にもご案内を差し上げましたところ、理事長様をはじめ大勢の役職員の方もお出席賜り重ねてお礼を申し上げます。

「きずなの会」は今後も持続的な活動を続けていかなければなりません、「きずなの会」の加盟家族会におきま

しても、親世代の高齢化に伴い家族会役員の担い手が減り「きずなの会」の退会にとどまらず家族会の解散にまで至ったりして厳しい状況が続いています。

家族会は、親・家族同士の不安や悩みの共有の場や障害者施策の情報共有の場として、さらには、利用者はもとより親・家族にとりまして質の高い暮らしをしていく頼みの綱であります。また、きずなの会にとりましても家族の皆様の声の代弁者として活動が続けていくためにも欠かせないものであります。熊本県をはじめ各自治体におきましては、第7期の障がい福祉計画によりまして障がい者の尊厳を守り、好きなところで好きな人と暮らしていくために施設から地域への移行が進められております。

「きずなの会」は皆様の声を聴きながら持続可能な組織として運営していかなければなりません。

家族会に加入してよかった。家族会でお互いの話の中で、一人ではないことが分かり心に安心感ができたと言っておられます。

「きずなの会」は、皆様と共に歩いて参ります。

「障害のある人もない人も ともに育む 地域社会を築きましょう」

「人・人・人 みんながって みんないい 笑顔あふれる 人の輪を築きましょう」

今年度の総会スローガンを理念にして皆様の御理解、御支援によりまして持続可能な「きずなの会」にして参ります。

今後、既存家族会の存続、それに家族会が設けられていない施設における立ち上げ、更に家族会を構成する家族・親の質の高い暮らしをはじめ、既存の活動には皆様の期待に応えられるよう熊本県知的障がい者施設協会と連携しながら取り組んで参ります。

目次

上村会長挨拶	P 1
第58回通常総会	P 2
令和6年度収支決算書	P 3
行政組織対策委員会報告	P 4

家族の想い	P 5
合同研修会報告、家族会紹介	P 6
家族会紹介	P 7
大会決議、スローガン	P 8

令和7年度 第58回通常総会を終えて

令和7年6月7日(土)、くまもと県民交流館パレアホールにて第58回通常総会が開催され、熊本県知事木村敬様をはじめとする多数の来賓の皆様にご臨席を賜り、併せて丁重なご祝辞を頂きました。今後も会員の皆様のご期待に沿えるような活動を展開してまいります。

今総会の出席者数は、代議員総定数173名中、121名(内委任状32名)で規約の成立条件を満たしていました。



【総会議案】

1. 令和6年度事業経過報告 2. 令和6年度収支決算報告、監査報告
3. 令和7年度事業計画(案) 4. 令和7年度収支予算書(案)
5. 役員改選について(新任:平野新市事務局長)

以上は承認、可決いたしました。

総会スローガン、総会宣言(案)は採択されました。

令和7年度執行部役員・委員名簿

三 役

役職名	氏名	所属家族会	任期 令和9.3.31
会長	上村 忠	第二城南学園	再任
副会長	松山 明子	支援センターゆきぞの	再任
副会長	青木 勝照	すみれ園	再任
副会長	五家やすよ	第二城南学園	再任
事務局長	平野 新市	みつば学園	新任

監 事

担当	氏名	所属家族会	任期 令和9.3.31
会計監査	平井 譲	荒尾市小岱作業所	再任
会計監査	丸田 啓二	第二つつじヶ丘学園	再任
会計監査	鏡 和子	済生会ひまわり	再任

委 員 会

広報委員会	委員長	堅島 誠一(めいとく)	委員	山本 瑞穂(ゆたか)・田上 陽子(ゆきぞの)
研修委員会	委員長	矢野久美子(さくら)	委員	藤本 初美(ゆたか)・中尾千恵子(さくら)
行政組織対策委員会	委員長	青木 勝照 副会長兼任(すみれ)	委員	片山 正人(サニーサイド)

【ブロック委員】

県北・県央・県南 それぞれのブロックの3家族会から1名ずつ選出

県北	高森寮・障がい者サポートホームわらび・さくら学園
県央	もみの木園・第二大江学園・ゆたか学園
県南	みつば学園・きずなの里・氷川学園

行 事 予 定

状況により変更もあります

令和7年9月13日(土) 令和7年度第2回理事会
 10月21日(火)～22日(水) 全国知的障害者施設家族会連合会
 第16回全国大会in鹿児島大会
 12月3日(水) 福祉大会

【第2号議案】

令和6年度きずなの会収支決算書

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

収入の部

(単位:円)

収入項目	本年度計画額(A)	本年度収入額(B)	比較増減(B-A)	備 考
1、会 費	2,952,000	2,715,374	-236,626	
会 費	2,952,000	2,713,374	-238,626	1,500円×1,818名分(概束手数13,526円差引)
賛助会費	0	2,000	2,000	1,000円×2名分
2、広告収入	40,000	50,000	10,000	きずな共済広告
3、寄付金	0	293,000	293,000	災害見舞金
4、雑収入	67	16,972	16,905	貯金利子
5、繰越金	3,081,933	3,081,933	0	
合計	6,074,000	6,157,279	83,279	

支出の部

単位:円)

支出項目	本年度計画額(A)	本年度支出額(B)	比較増減(B-A)	備 考
1、会議費	2,120,000	1,548,431	-571,569	
総 会 費	300,000	198,804	-101,196	総会会場費等
諸会議費	1,000,000	936,742	-63,258	会議室代・弁当代・旅費・お茶代
全国家族会会議費	820,000	412,885	-407,115	全国家族会会費、会議費
2事業費	950,000	618,330	-331,670	
広報費	350,000	227,930	-122,070	きずな誌
研修費	100,000	54,400	-45,600	研修参加費
施設協力費	400,000	318,000	-82,000	施設協会へ
渉外費	100,000	18,000	-82,000	サニースайд・済生会夏祭りお祝い
3、事務局費	1,140,000	813,716	-326,284	
事務消耗費	100,000	64,382	-35,618	事務用品・コピー代・印刷代
通信費	160,000	76,354	-83,646	郵送料・切手・ハガキ・メール便代
事務所費	70,000	50,000	-20,000	事務所使用料
機器購入費	150,000	12,980	-137,020	パソコンセキュリティソフト代
役員報酬費	300,000	250,000	-50,000	三役、委員長、委員、監査手当
事務職員手当	360,000	360,000	0	事務職員手当
4、分担金	40,000	70,000	30,000	親の会連合会負担金
5、雑費	100,000	2,859	-97,141	振替手数料他
6、予備費	1,724,000	1,729,230	5,230	災害見舞金他
合 計	6,074,000	4,782,566	-1,291,434	

収入済額	支出済額	翌年度繰越額
6,157,279	4,782,566	1,374,713

令和7年4月9日に関係帳簿及び貯金通帳、領収書等監査の結果適正に処理されていることを認めます

監 事

丸田啓



監 事

平井譲



監 事

鏡 和子



行政組織対策委員会報告

行政組織対策委員長
青木勝照

行政組織対策委員活動の目的としまして、障がい者本人、親・家族の質の高い暮らしを求めていくことを課題とし、根深く残っている差別や偏見の根絶にむけた活動内容を令和7年度事業計画に掲げております。

1. 熊本県障がい支援課、熊本市との意見交換会及び要望活動

第7期障がい者福祉計画が進められており、その進捗状況と重度知的障がい者、強度行動障がい者をはじめ、様々な知的障がい者の支援についての意見交換を行い、すべての障がい者が安心した暮らしができるような支援をもとめてまいります。

また、県・市の要望としましては、昨年行いました皆様へのアンケート結果を基に、障がい者本人及び親・家族が求めている居場所、暮らし、親亡き後の暮らし、入所待機者の解消などについて、要望を行ってまいります。

2. 県議会、市議会へのロビー活動

昨年は、熊本県議会の自民党厚生部会へ障がい施設の実態、及び子どもが障害を持つ親の暮らし向きについて意見交換を行いました。今年度は、県・市議会議員に関心が持たれるように、県や市に要望している事柄についてロビー活動を行ってまいります。

3. 施設協会との意見交換会

知的障がい者の福祉の増進をはかることを目的にされている施設協会と意見交換を実施することにより、障がい者支援施設の利用者が安心した暮らしができるように、きずなの会との両輪として連携してまいります。さらに、当協会が主催する、施設協会施設職員・家族会合同研修会及び、施設協会福祉大会を共催することで、福祉の増進に一翼を担うこととしております。

4. 友誼団体との連携強化

障がい者施設協会をはじめ親の会連合会、手をつなぐ育成会、とは障がい者福祉の向上、障害者福祉政策等の改善に連携して取り組んで参ります。

5. きずなの会組織強化

家族会の充実を図るため、各家族会の意見を聞きながら議論し進めてまいります。

以上の項目を今年度の事業計画として掲げております。冒頭にあります障がい者、親・家族の質の高い暮らしを求めていくために、様々な支援体制の充実が、家族の負担を軽減し、利用者が安心して暮らせる場に繋がっていくと考えます。皆様とご一緒に課題解決に向けて、連携を深めてまいります。

令和7年4月25日に熊本県知事にきずなの会から要望書を提出しました。

要望書内容

一、地域共生社会の実現について

1. 知的障がい者の地域移行の意向確認にあたっては、本人の意思決定かどうか、そのプロセスや手続きは「見える化」をして本人の意思なのか判断できる体制を構築すること
2. 地域移行に当たっては、インクルージョン社会の実現に早急に取り組み、安心安全な地域共生生活が送れることを実現すること
3. 暮らしやすい環境をつくるため、居住環境の整備、就労の確保、賃金の生活必要額の確保、外部医療との連携を図ること
4. 地域移行者の緊急時受け入れ、重度知的障がい者の受け入れ、地域生活の体制づくりなどについて機能する地域生活支援拠点の整備を促進し、安心安全な地域共生生活を確保すること
5. 障害者雇用促進法の法定雇用率順守及び安定収入の確保を図ること

二、安心して暮らし続けられる終の棲家の確保について

1. 今後も障がい者支援施設を含めた、本人の状況に応じた生活の場を確保することを国へ要請すること
2. 障がい者支援施設への入所待機者の解消を図ることを国へ要請すること
3. 訪問診療等の外部医療との連携や看取り加算の創設等、障がい医療支援施設の重度化・高度化に対応した専門的ケアを行う体制の充実を図ることを国へ要請すること
4. 障がい者支援施設職員の増員と待遇改善を図ることを国へ要請すること



家族の想い

ダウン症の子と共に

第二城南学園支援者の会 五家やすよ

我が家の息子健一は、平成5年生まれ、現在、第二城南学園就労継続支援B事業所に通所しています。

息子は、胎動も微弱で分娩まで17時間近くかかり、産声も聞こえず手足も動かない状況でとても小さく産まれました。そのまま新生児センターNICUへ移送され、無菌室で約40日間ガラス越しの面会でした。1ヶ月後初めて健一を抱いたとき、お腹の中心部が胸から縦長に膨らんで盛り上がり、おへそが大きく飛び出し、身体全体の筋力が無く、顔の表情も動かず、泣き声も出ませんでした。又、排便する力がないので定期的に注射器を使って浣腸をするように指導を受け、また母乳も吸う力が弱いため搾乳し、鼻からの注入や保育瓶で時間をかけてゆっくり飲ませる毎日でした。

そして生後59日目に、医師よりダウン症（染色体異常）の告知を受けたのです。

ダウン症？ 治るのですか？？ 私は、全くダウン症について無知でした。

医師からは、知的障害、発達遅延があり、この子の場合、特に感染や怪我などで落命する危険が大きい。20歳まで生きられればとのお話に、凄いショックでした。待望のわが子、何とか生命を守ってやろうと必死でした。

1才を過ぎても発語もなく筋力も弱いため、言語訓練、発達訓練に通うなか、感染の危険より発達に刺激を与えるために早期の集団保育を勧められ、2才から保育園に入園させました。免疫力が弱く少しの油断で感染症にかかり、すぐ重篤化して救急外来を受診、即入院となることも頻繁でした。初めて歩いたのは2才、少し走れるようになったのは4歳頃、片言の言葉が出たのは小学校3年生頃。何とか地元の子供達と一緒に過ごして欲しいと、また地元にも健一のような子供がいる事を理解して欲しいと、地域の行事や子供会など親

子で積極的に参加して交流を重ねていました。しかし、本人としては意思伝達が出来ないのので、親には理解できない抑圧があったのかも知れません。

支援学校中学部に入学し初めての運動会。そこには弾けるような笑顔で、のびのびと走ったり踊ったりする健一の姿がありました。親が自分の経験や知識で子供を判断して方向づけをすると、この子の人生は楽しくなくなるのではないかと。それからは、地域にこだわらず、親子で旅行、キャンプ、おもちゃ図書館、育成会やダウン症協会の療育、ダンスグループ、子供劇場など、いろんな場所へつれていきました。

高等部を卒業するにあたり、何をしたいか、何が出来るか、本人の意思はなかなかみ取れません。コミュニケーション障害、体力も、知力もない健一にとって成長できる場所を求め、第二城南学園の自立訓練、就労移行支援事業を体験させて頂きました。現在は就労継続支援B型事業所で支援を頂きながら「お仕事する」と毎日楽しく頑張っています。

医師から言われた20歳の壁を越え、コロナも乗り越え、今が「青春」の健一です。

しかし、通園してる以外は総て親と一緒に生活ですが、親も高齢者になってきました。健一は、2才から眼鏡を装着しており、段差や高いところが苦手なうえ、30代以降は白内障にもなりやすく、さらに運動機能が低下（早老）しやすいとのことで心配事は絶えません。また、一人っ子であり、成年後見制度のあり方や親亡き後の暮らし方、地域移行、地域共生社会が進められている中で、知的障害のある息子にとってどんな暮らしになっていくのか、今の一番の心配事であり、親としては、一日でも元気で長生きして見守っていききたいと思う日々です。

令和6年度合同研修会

研修委員長
矢野久美子

熊本県知的障がい者施設協会ときずなの会の共催する研修会を嘉島町民会館（アクアホール）にて、2/28(金)に開催しました。

講演は太田信介氏で重度の自閉症である実弟と家族として、ビジネスパートナーとして生活してきたことを話されました。

太田氏は福岡県大牟田市の出身ですが熊本の大学に進学し、熊本はとても馴染み深いそうです。翌々4月には鶴屋で展示会をされました。

今回の講演では、幼少期から兄妹姉妹としての感情（不快・心配）や、大人になっての感情（応援したい）のことについて、丁寧に話してください

いました。

講演を聞きながら私は涙がこみ上げそうになるくらい共感しました。

きずなの会主催【研修会】も今年度中に実施する予定です。

講師は未定です。

題材は《ヤングケアラーや兄弟姉妹で支援する》事柄についてです。

もし太田氏に講師をお願いできたら、皆さんには是非聞いて頂きたいです。

シリーズ 家族会紹介

障がい者サポートセンター ゆうすい

自然豊かな天草の地に平成5年に社会福祉法人弘仁会が設立され、平成6年4月より30名定員で湧水の里を開設しました。その後、平成9年に重度棟を20床増設し、現在の定員50名となりました。また、平成23年4月より障害者支援施設として「湧水の里」から「障がい者サポートセンターゆうすい」へと施設名を変更し、今年で31年目を迎えました。

社会福祉法人弘仁会の事業所としましては、施設入所支援・生活介護（障害者支援施設）、短期入所、共同生活援助（4住居）、指定特定相談支援事業所、障害者就業・生活支援センター事業を運営し、地域福祉にも積極的に取り組まれています。

秋には施設の一大イベント「ゆうすい祭」が毎年開催され、地域の方や中高生のボランティ

アの皆さんの協力のもと、地域の方や他施設の利用者の方など、約400名以上の方にご来場頂き、地域交流の場として毎年大盛り上がりしています。

施設の利用者も高齢化が進む中、家族も高齢化が進み、保護者会の構成も親から兄弟、従兄妹、甥、姪あるいは成年後見人と変遷してきています。

それに伴い、役員のなり手不足や保護者会へ出席できない保護者が増えてきているのが実情です。

保護者会としましては、これまで同様、施設の職員さんと一緒に利用者さんにとって安心・安全を第一に、健康で楽しく過ごせる施設であり続けられるよう、微力ながら活動して参ります。

ゆうすい保護者会 会長 原田 一也



シリーズ 家族会紹介

熊東園

知的障がい者支援施設「熊東園」は、熊本地震からの復興の途上にある益城町広崎と熊本市との境にあります。

開所以来30年余が経ち、現在は、入所者（50名）と生活介護者（65名）の方々がいます。9年前の熊本地震発災の時は、施設は大きな損壊もなく、地域の福祉避難所としての機能も果たして頂きました。当時は、混乱の中保護者や家族は一緒に子どもや、家族の安否の確認に心を痛めました。施設職員の皆さんの手厚い支援や一人一人への丁寧なかかわりの中で、みんな無事に乗り切ることが出来、安心して施設での生活が取り戻していることに保護者会としても安堵しています。その様な中で、新型コロナウイルス感染症により、また一つの苦難に見舞われてしまい、世の中の状況が、施設にも大きな影響を与えられてしまいました。行動制限や、感染症の発生などにより、利用者の面会や帰省もままならず心が重く気持ちの晴れない日々が続きましたが、やっとコロナ感染症が5類に移行されて、徐々に平常の生活を取り戻してきています。



保護者会としても、施設と協力して、少しずついろいろな活動に取り組めるようにしていきたいと思っています。しかしながら、保護者会の運営は、御多分に漏れず、利用者の方々と家族の高齢化が少しずつ進んできている中で、役員のなり手不足、また、保護者会活動への出席の難しさがあるのが現状です。

しかし、利用者の方々と家族の皆さんが安心して生活できる環境であるために、施設職員の方々と、保護者会も微力ではありますが力を合わせて支えていくことが出来ればと考えています。

去年は、コロナ禍以来、5年ぶりに「熊東園」好例の『秋祭り』が開催され、ステージ発表を一緒に見たり、キッチンカーの美味しいものを食べたりして、職員の方と保護者会共々、利用者の皆さんの楽しそうな笑顔をたくさん見ることが出来て、本当にうれしく思いました。これからも少しずつ楽しい活動“ができるようにお手伝いをしていきたいと思っています。

熊東園保護者会 熊愛会 会長 谷川 達彦



熊東園秋祭り



編集後記

今年の夏は、史上最速の梅雨明けということもあり、全国的に猛暑日が多くなりそうな気配をみせているようですが、それに米騒動、物価高が追い打ちをかけるように世の中を熱くしているよう

に思えます。この夏が終わる頃までには熱が冷めていることを祈るだけです。

広報委員 （堅島誠一 山本瑞穂 田上陽子）



令和7年度 総会スローガン

障がいのある人もない人も

共に育む

地域社会を築きましょう

人・人・人

みんなちがって みんないい

笑顔あふれる 人の輪を築きましょう

第58回総会決議

昨年7月に最高裁判所で旧優生保護法は憲法違反との判決がなされたところであります。旧優生保護法に起因する優生思想による差別や偏見は未だ根深く残っております。

これから、その根絶に向かって障がい者団体として何ができるか検討を加えながら取り組んでいかなければなりません。

障がい者が地域で快適に暮らせる社会が求められており、「地域共生社会」の実現と、障がい者支援施設をはじめグループホーム・居住地が終の棲家の機能を持たせ、障がい者にとって快適な暮らしができるよう次のことを本大会の決議とします。

1. 地域共生社会の実現に向けては、障がい者の意向確認を充分に行って進めるとともに地域共生ホームで暮らせない障がい者は、元の施設へ復帰できるセーフティネットの実現、及び快適な暮らしができる共生ホームの実現を図ること
2. 障がい者福祉社会では持続可能な社会が求められています
障がい者も親・家族も質の高い暮らしが持続できる社会とするために、障がい者支援施設等は終の棲家としての機能を持たせ、職員数を増やし、障がい者・親・家族の暮らしの質を高めること
3. 親亡き後も安心して障がい者が暮らしていけるように、65歳問題については障害者総合支援法で取り扱うよう自治体間で統一させること
4. 家族会は、障害者施策等の情報共有及び国等への要望主体として、更には仲間との出会いの場として不可欠であり、家族会を存続させる等組織強化を図ること

令和7年6月7日
熊本県知的障がい者施設家族会連合会
(きずなの会)

令和7年度きずなの会
加入施設及び会員数

	施設名	会員数
1	居屋敷の里保護者会	30
2	うぐいす保護者会	46
3	ヴィラささゆ家族会	38
4	第二大江学園家族会	55
5	熊本菊陽学園保護者会	100
6	きずなの里家族会	64
7	済生会ひまわり家族会	75
8	さくら学園家族会	20
9	サニーサイド家族会	50
10	城南学園家族会	57
11	第二城南学園支援者の会	47
12	すみれ園ささえる会	35
13	清香園保護者会	73
14	精粋園保護者会	49
15	高森寮家族会	50
16	つつじヶ丘学園家族会	57
17	第二つつじヶ丘学園家族会	59
18	天水生命学園保護者会	86
19	なぎさ寮保護者会	47
20	南海寮家族会	84
21	氷川学園家族会	65
22	みつば学園家族会	66
23	めいとくの里入所部家族会	50
24	もみの木園家族会	70
25	八代学園家族会	40
26	友愛育成園保護者会	31
27	ゆうすい保護者会	69
28	熊東園保護者会	50
29	ゆきぞの家族会	63
30	ゆたか学園保護者会	41
31	荅山寮家族会	60
32	わらび家族会	28
	合計会員数	1755